



新年のごあいさつ

未来をつなぐ 八頭のか



八頭町長 原 太朗

新 年明けまして、おめでとうございます。

町民の皆様方には、ご健勝で輝かしい令和7年の初春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃より町政全般に対しまして、格別なるご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、元日の夕方、石川県能登地方を震源とする最大震度7の大地震が発生しました。災害関連死を含めて四百人を超える多くの方がお亡くなりになった「能登半島地震」から一年が過ぎようとしています。被災地が地震からの復旧復興の歩みを進めているさなかの9月には「能登半島豪雨」が再び能登半島を襲い甚大な被害が発生しました。被災された地域の皆様に改めて心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

八頭町においても、地震や異常気象による台風の大規模、近年頻発しているゲリラ豪雨、大雪など予測困難な災害に備える必要があります。平時から

避難経路、手段等の確認、防災備蓄品の点検など防災意識の向上を図るとともに、改めてソフト・ハードを含めた防災対策の再検討を行い、安心・安全なまちづくりに取り組んでまいります。

また、「能登半島地震」、「能登半島豪雨」で被災された方々への支援として、郡家東小学校児童の皆さんをはじめ、多くの町民の皆様方から寄せられて被災地にお届けをいたしました。皆様方のあたたかいご支援、ご協力に感謝申し上げます。

海外に目を向けますと、アメリカカリフォルニア州の大谷翔平選手の活躍が日本はもとより世界中の明るい話題となる一方で、ロシアによるウクライナ侵略をめぐる状況は、戦間期の長期化が避けられない状況となっています。ロシアが核兵器を使用する可能性を示唆する中で、核廃絶を願う声を、唯一の戦争被爆国・日本から世界に発信し続けてきた「日本原水爆被害者団体協議会」が、ノーベル平和賞を受賞しました。今年は広島、長崎に原爆が投下されてから節目の八十年の夏を迎えることとなります。悲惨な戦争や原爆の過去を知り、現状を考えを巡らせ、より平和な未来を創っていくため、私たちみんなで、平和の尊さを伝える行動を改めて始める年になればと思っております。

さて、この夏は観測史上最高を更新

する猛暑に見舞われました。熱中症警戒アラートが過去最高の発令回数となる酷暑の中、本町の水稻、果樹など農作物への影響が心配されましたが、一部害虫と高温による被害があったものの無事実りの秋を迎え、特産品である梨、柿等は高値で取引されたと伺っております。

しかしながら八頭町の基幹産業である農業において、今、後継者、担い手不足が課題になっております。

八頭の素晴らしい果樹を次世代に伝えるため、関係機関をはじめ多くの皆様方にお世話になり、果樹栽培の技術と知識を学ぶ「八頭町果樹トレーニングファーム」を昨年十月に開講し、現在、第一期生が研修中です。研修終了後には果樹栽培の後継者として活躍いただけるものと期待しております。

また、昨年は、若い世代の活躍を伝えるうれしいニュースもたくさんありました。八頭バレーボールクラブが県予選会で初優勝を果たし、全日本バレーボール小学生大会に出場しました。子ども自転車鳥取県大会で優勝した八東小学校チームは、全国大会で鳥取県勢過去最高順位に並ぶ4位に入賞しました。八頭中学校駅伝部は、鳥取県中学校駅伝大会で、女子は4年連続5回目の優勝、男子も2年ぶり6度目の優勝を果たし、全国大会では、力強い走り、私たちに感動を与えてくれました。子どもは地域の宝です。八頭町の次代を担う子どもたちが、将来への

大きな夢や希望を持ち続け、その実現に向けて着実に歩みを進めていけるよう、引き続き支援をしてまいります。さて、令和7年は、旧の郡家町、船岡町、八東町が合併し、八頭町が誕生してから二十周年となる節目の年を迎えます。現在、八頭町の新たなまちづくりの道標となる「第3次八頭町総合計画」「第3期八頭町総合戦略」の策定に着手しております。

先の臨時国会での石破総理大臣の所信表明演説にあるように、地方創生の再起動（地方創生2.0）により地域の活力を取り戻すことが提唱されています。人口減少や過疎化という厳しい現実の中ですが、国の施策と相まって、誰もが安心して住み続けられる持続可能なまちづくりが不可欠です。これからも医療・福祉・買い物・交通といった生活サービス・インフラの維持に向け、人口減少問題解決の鍵を握る若者、女性に選ばれる魅力的な八頭町の創造を目指してまいります。

人と人との絆や地域でのつながり、郷土愛は「八頭のか」で大きな財産です。私たち八頭町の今と未来を、町民の皆様方と共に創造してまいりたいと考えておりますので、町民の皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

年頭にあたり、新しい年が町民の皆様方にとりまして、健康で幸多き飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。